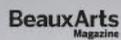


citē
dentelle
mode
calais

YUIMA NAKAZATO

AU-DELÀ DE LA COUTURE

15 juin 2024
5 janvier 2025



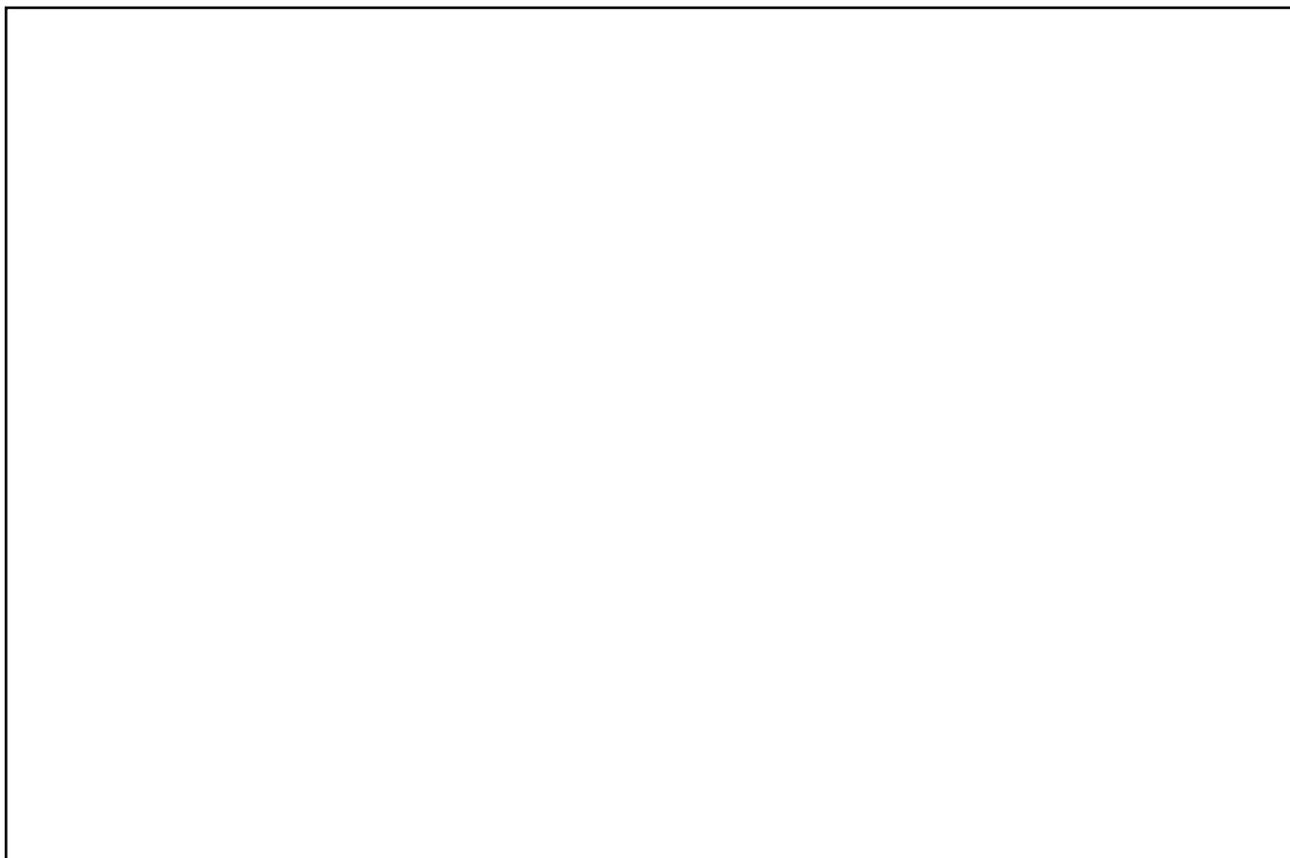
Yuima Nakazato, Collection ATLAS, printemps-été 2024, mannequin : Laura Wäzler
photo : Yasuaki Okuma, Conception graphique : Studio Terec

YUIMA NAKAZATO (ユイマ・ナカザト)
初回顧展「YUIMA NAKAZATO, Beyond Couture」
日本メディア向けプレスパック

目次

- P. 3 -プレスリリース
- P. 6 -キュレーターからのメッセージ
- P. 8 -カレー・レース・ファッション美術館について
- P. 9 -ファッションとレースの未来:
中里唯馬氏へのインタビュー
- P. 10 -中里唯馬について
- P. 10 - YUIMA NAKAZATO
ファッションショー, 受賞歴, 展覧会と特別プロジェクト
- P. 13 -展覧会構成/デザインおよびパートナーシップ
- P. 14 -展覧会一般情報
- P. 14 -プレスコンタクト

YUIMA NAKAZATO (ユイマ・ナカザト) 初の単独回顧展、
フランス・カレーの美術館で開催
美術館初の日本人デザイナー個展、
過去全てのクチュールコレクションから総勢50体以上が展示



YUIMA NAKAZATO (ユイマ・ナカザト) 初の単独回顧展「YUIMA NAKAZATO, Beyond Couture」(ユイマナカザト、ビヨンド・クチュール)が、2024年6月15日から2025年1月5日までの8ヶ月間、フランス北西部の都市カレーにあるLa Cité de la dentelle et de la mode (カレー・レース・ファッション美術館)にて、開催されています。

4年間の準備期間を経て始まる本展では、同ブランドが2016年よりパリのオートクチュール・ウィーク (Haute Couture Week) にて発表してきた全シーズンのアーカイブから選ばれた計50体以上が一堂に出揃い、デザイナー中里唯馬が作り出す未来的かつ詩的な世界がエキシビションという形で表現されます。これに加え、ドローイングから素材の実験サンプルに至るまでのデザインの裏側までも同時に公開されず。

自身初の回顧展がフランスでの開催となりましたが、日本人ファッションデザイナーの回顧展がフランスの公立美術館で行われるのは、1988年のイッセイミヤケ (三宅一生) *1、2005年のヨウジヤマモト (山本耀司) *2、2006年のハナエモリ (森英恵) *3 以来の4人目となり、中里は最年少での開催となります。

「この度、私が2016年よりフランスの文化であるオート・クチュールの世界で挑戦を続けてきた歩みを、ラグジュアリーテキスタイルの産地として歴史あるカレー市にて、回顧展を開催できることを光栄に思います。今日、大量生産が加速する時代において、様々な課題を抱えたまま走り続ける中、クチュールは、

丁寧に一点物を作るというプリミティブな行為の一方で、手仕事を重んじ、私はここにファッションの未来があると信じています。そのことを、カレー市と共に世界へ発信できることを嬉しく思います。

この展示を実現するにあたり、コロナ禍を経て4年の間、粘り強く共に走り続けサポートして下さった美術館のスタッフのみならず、そして私のアトリエのスタッフに心から感謝します。」とデザイナーの中里はコメントしました。

また、イブ・サンローラン、ジバンシィ、ディオールなど、フランスを代表するデザイナーの作品を多く収蔵、展示する傍、常に前衛的なデザイナーをいち早く紹介し続けてきた同美術館が、日本ブランドのソロ企画展を開催するのも、今回が初めてになります。

展覧会開催に向け、同美術館副館長で本展覧会主任学術キュレーター Shazia Boucher は以下のようにコメントを寄せています。

「YUIMA NAKAZATO は、衣料品産業における過剰消費とリサイクルの欠如という現代の社会問題に、ブランドの実証された技術で直接的に取り組んでいます。私たちは、このビジョンと革新的な仕事を広く宣伝することが重要だと感じています。こうして、中里唯馬の作品の初のソロエキシビションを開催するというアイデアが生まれました。このイベントは、今までに非常に多様なデザイナーのアプローチを紹介してきた美術館の一連の展覧会の最新版です。カレー・レース・ファッション美術館は毎年、歴史的なデザイナーと前衛的な研究を交互に紹介する重要な研究を提案しています。10年前のイリス・ヴァン・ヘルペン (Iris van Herpen)、2016年のアンヌ・ヴァレリー・ハッシュ (Anne-Valérie Hash)、2019年のオリヴィエ・ティスケンス (Olivier Theyskens) に続く中里唯馬は、シンプルな手段と技術を試し、自然資源に敬意を払うファッションを生み出しているアーティストとして、カレーで紹介される最初の例です。」

YUIMA NAKAZATO の作品は、革新、伝統、最先端のテクノロジーの交差点にあり続けてきました。デザイナー中里唯馬は、オートクチュールの創造性と日本の伝統的な技法にインスピレーションを得て、持続可能なファッションを発信してきました。彼の詩的な衣服に対するビジョンは、オーダーメイドの作品を人々にとってより身近なものにしたいという願望によって推進されています。

1985年に日本で生まれた中里唯馬は、2008年にアントワープ王立美術アカデミー (ベルギー) を卒業しました。折り紙の技法を取り入れた卒業コレクションに対してアカデミーより贈られたイノベーション・アワードを含む、数々の賞を在学中にヨーロッパで受賞し、2016年以降は年2回パリでオートクチュールファッションウィークの期間中にゲストメンバーとしてコレクションを発表しています。権威あるオートクチュールに参加する日本人ファッションデザイナーとしては、森英恵に次いで2人目となります。

最初のコレクション以来、中里唯馬は、進歩的で持続可能で、着る人との独特の感情的なつながりを生み出すことができる服を作りたいと考えてきました。これを実現するために、彼は自ら考案した技術や、東洋と西洋の職人技を活用した技術を開発しています。彼のインスピレーションは主に自然 (クジラの歌、火山の赤い溶岩、風景の美しさ) から得られ、彼の作品を通して東洋の思想の影響を思い起こさせます。

ファッション業界の環境への影響は、中里唯馬の最大関心事の1つです。彼にとってのクチュールは、業界ではリサイクルされないアップサイクル素材や廃棄物を取り入れた、より社会的責任あるファッションの実験場です。専門家、研究者、産業家とともに、彼は3Dプリント、合成タンパク質を使用した繊維の作成、新しい技術の導入など、革新的なテキスタイルと製造プロセスを開発するために技術の限界を押し広げてきました。並行して中里は、2024年2月にジュネーブ大劇場で初演されたオペラ「イドメネオ」の衣装を含む、舞台、バレエ、オペラの衣装もデザインしています。

美術館チームと手を取り合って作り上げた未来的で詩的な世界のなかで、この展覧会はユイマ・ナカザトブランドの2016-2024クチュールコレクションから約50ルックと、これらの舞台衣装への取り組みを紹介し、同時に公開されるアクセサリ、ファッションスケッチ、技術図面、生地サンプル、ファッションフォトグラフィー、ビデオの展示では、デザインの背後にある創造的プロセスを紐解きます。

*1) ISSEY MIYAKE « A-ÛN » パリ装飾芸術美術館 開催年 1988年 https://www.lemonde.fr/archives/article/1988/10/06/le-styliste-issey-miyake-au-musee-des-arts-decoratifs-a-un-le-souffle_4092283_1819218.html

*2) YOHJI YAMAMOTO « JUSTE DES VÊTEMENTS » パリ装飾芸術美術館 開催期間 2005年4月13日 - 8月28日 <https://madparis.fr/yohji-yamamoto-juste-des-vetements>

*3) HANAE MORI « Rétrospective » La Maison de l'Amérique Latine 開催期間 2006年10月6日 - 27日 https://www.luxe-magazine.com/fr/article/1245-agenda_octobre_2006.html

キュレーターからのメッセージ

Anne-Claire Laronde

文化遺産主任キュレーター、カレー・レース・ファッション美術館館長、総合キュレーター

Shazia Boucher

文化遺産キュレーター、カレー・レース・ファッション美術館副館長、本展覧会主任学術キュレーター

展覧会の起源

2020年の初め、パリの中心部にあるパレ・ド・トーキョーでユイマ・ナカザトが発表したCosmos collectionは、まさに視覚的にも感情的にも衝撃的でした。淡い赤ピンクの光に包まれた部屋の大きな窓からは、セーヌ川とその向こうのエッフェル塔が見渡せました。観客は、奇抜でカラフルなヘアスタイルの若いモデルたちのランウェーを目撃しました。手編みのゆったりとしたドレスから始まり、水玉模様の生地を使った流れるような服、そして彫刻的でダイナミックな形のドレスへと展開しました。

ショーの最後には、私たちは舞台裏に招待され、作品を直接見て、その起源について学びました。デザイナーの中里唯馬と彼のチームは、コレクションの作成に使用されたテキスタイルはブリュードプロテイン(Brewed Protein™ *1)から作られていると説明しました。この素材は、研究室でのタンパク質発酵プロセスから生まれたもので、衣料品業界の原材料を製造する際に動物由来の原料や石油化学製品の使用を避けるための新たな発明です。中里氏は、この環境に優しい繊維を使ってかぎ針編みのドレスを作っています。しかし、もっと重要なのは、バイオスマッキング (Biosmocking® *2) 法で、針や糸を使わずに、平らで長方形の生地を立体的なボリュームに変え、人の体型に合わせることができることです。この同じ素材を使って、200年前の技術を駆使したリーバー織機で今も生産されている有名なカレー・コードリー (Calais-Caudry®) レースを作ることができたらどうでしょうか。この議論は、デザイナーのアプローチの中心にある持続可能性への懸念と一致しています。創造性と革新をモットーとする織りレース業界で、私たちは進化の可能性を目撃したのでしょうか。

2020年時点で、YUIMA NAKAZATOブランドは、オートクチュール・ファッション連盟が主催するパリファッションウィークのゲストメンバーとして4年連続で参加しました。コレクションは、その美的かつ未来的な品質、そして革新的な技術と伝統的な専門知識を組み合わせた使用で高く評価されました。しかし現在、Brewed Protein™繊維にBiosmocking®法を適用することで、YUIMA NAKAZATOは、断固として持続可能で環境に優しい高級衣料品産業の到来に向けて大きな飛躍を遂げています。

YUIMA NAKAZATOブランドの作品は現在、限られた人々を対象としていますが、実証された技術は、衣料品産業における過剰消費とリサイクルの欠如という現代の社会問題に直接取り組んでいます。私たちは、このビジョンと革新的な仕事を広く宣伝することが重要だと感じています。こうして、中里唯馬の作品の初のソロエキシビションを開催するというアイデアが生まれました。このイベントは、今までに非常に多様なデザイナーのアプローチを紹介してきた美術館の一連の展覧会の最新版です。カレー・レース・ファッション美術館は毎年、歴史的なデザイナーと前衛的な研究を交互に紹介する重要なモノグラフを提案しています。10年前のイリス・ヴァン・ヘルペン、2016年のアンヌ・ヴァレリー・ハッシュ (Anne-Valérie Hash)、2019年のオリヴィエ・ティスケンス (Olivier Theyskens) に続く中里唯馬は、シンプルな手段と技術を試し、自然資源に敬意を払ったファッションを生み出しているアーティストとして、カレーで紹介される最初の例です。

***1) Brewed Protein™**

日本の素材開発スタートアップSpiber社が生み出したサステイナブルな人工合成タンパク質素材。独自のテクノロジーによりアプリケーションごとにテーラリングされた Brewed Protein(ブリュード・プロテイン)™はブリューイング(微生物による発酵)によりつくられるため、主原料を石油や動物に頼らないサステイナブルでエシカルな新素材として、アパレル、輸送機器、建築資材、人工毛髪、医療機器など、様々な分野での展開が期待されている。

***2) Biosmocking®**

ブリュード・プロテイン™テキスタイルの超収縮(形状変容)する特徴を、デジタルファブ리케이션により精密にコントロールすることで、生地を自由に變形させる事ができる技術。研究を重ねた結果、本コレクションでは収縮をコントロールする技術の精度が飛躍的に向上し、採寸した身体情報により精度高く合わせる事を可能にした。また、これまで以上に複雑な造形を作り出す事ができるように進化し、自然をモチーフとした有機的なフォルムを作り出すことに成功した。

カレー・レース・ファッション美術館 (LA CITÉ DE LA DENTELLE ET DE LA MODE/Calais Museum of Lace and Fashion) について

19世紀にイギリスで発明された、織機によって編むレースは、現代ヨーロッパの織物の特徴的な技術です。フランス北西部の街カレーに位置する、カレー・レース・ファッション美術館 (LA CITÉ DE LA DENTELLE ET DE LA MODE) は、西洋の優雅さとフランスのオートクチュールの代名詞であるこの技術を保存、展示する専用の美術・博物館になります。

同館は、サン=ピエールの中心地にあった19世紀後半のレースの製造工場の建物を利用しています。1870年にふたりの投資家、ブラール (Boulart) 兄弟によって建てられたこの運河沿いの工場は、多数のレース製造者が入る当時の典型的な共同製造工場でした。1902年には80台のレース編み機を持つ工場として繁盛し、2000年に閉鎖されるまで、1世紀以上にわたってレースの製造を行っていました。そして現在、赤と黄のレンガが特徴的なこのU字形の建物は、カレーのレース産業の歴史を語る博物館として、その扉を開いています。

カレー・レース・ファッション美術館はファッションと技術の博物館であるだけでなく、フランスのラグジュアリーとファッション産業に不可欠なノウハウのリソース・センターでもあります。2009年の改装と拡張は、建築家のアラン・モアッティとアンリ・リヴィエールの手によるもので、19世紀当時のレンガ造りの工場に、ガラス張りの新しい建築部分が増築され、工場という本来飾り気のない建物に、モダンでシックなイメージが加えられました。ガラスのファサードに、機械編みレースのシンボルともいえるジャカル機のパンチカードの文様が、シルクスクリーンで施されているのが特徴です。レース作りの伝統の価値を強調すると同時に、現代のデザインとの架け橋となっています。

広大な博物館のギャラリーでは、レースの歴史、その技術、旧工場の作業場で稼働していた機械、高品質なランジュアリーと衣服のコレクション、そしてそれら的高级織物のより現代的な側面が紹介されています。博物館のモード部門のギャラリーでは、19世紀から現在までの洗練されたデザインの世界が広がっています。イヴ・サンローラン (Yves Saint Laurent)、ディオール (Dior)、シャネル (Chanel)、ジヴァンシィ (Givenchy) といった名だたる高級メゾンのドレスや装飾品など共に、カレーのレースを使用した最も前衛的な現代デザイナーの作品が集められています。また、2011年以降は常設展の他にも、Iris Van HerpenやYves Saint Laurenを含む様々なファッションブランド/デザイナーを迎えた企画展が、増築された建物の部分で行われてきました。伝統的なレースが現在のデザインにひらめきを与えていることを伝える展示内容は、レースが現在と未来を繋ぐことも暗示するかのようです。

ファッションとレースの未来:

中里唯馬氏へのインタビュー

カレー・レース・ファッション博物館の文化遺産キュレーター、Shazia Boucher氏との対談

Shazia Boucher氏（以降SB）：

展示会の準備中に、あなたはダルケー・アンド・メリー・レース社(Darquer & Mery lace company)を訪問し、有名なカレー・コードリーレース（Dentelle de Calais Caudry®）を織るリーバー織機の技術と創意工夫を発見しました。あなたにとってこの織物は何を象徴していますか？

中里唯馬（以降中里）：

昨年、セバスチャン氏（ダルケー・アンド・メリー・レース会社のディレクター、ベント・ソアレス氏）と話をし、フランスのレース産業について少しずつ学びました。私の作品で展開している着物哲学と共鳴する側面もあるので、とても興味深いです。しかし、私たちの絶えず変化する世界では、ライフスタイルは進化しています。そして、繊維産業とデザイナーは消費者の要求に適応しなければなりません、それは簡単なことではありません。

SB: あなたは芸術家の一家に生まれました。アートとレースの間には関係があると思いますか？

中里: 私の母はジュエリーデザイナーでしたが、ジュエリーを例にとると、ジュエリーを身につける機能的な理由はないように思われます。それでも人々はジュエリーを身につけますし、その理由は私を魅了します。

人々は服を選ぶ際に機能性だけを求めているわけではありません。人々はさまざまな欲求、つまり人生における感情、アート、美しさを表現したいという欲求に突き動かされています。私はレースを身につけるという選択の背後に同様の欲求を感じます。この側面は非常に重要です。私たちは衣服の美的感覚と美しさを失ってはいけません。人々はルネッサンス以来5世紀以上にわたってレースを身につけてきましたが、機能的というよりは先験的に気まぐれに見える織物をなぜ人々が身につけることを選ぶのかを理解しようとするのは、私にとって興味深いことです。

私たちは実用的な理由で服を着ます。暖かく保ったり、体の特定の部分を覆うためです。しかし、着こなしは自分を表現する方法でもあります。そうでなければ、私たちはみな同じ制服を着ることになります。人間には創造し、自分を美しくしたいという欲求があります。服を着ていなくても、人間は常に自分の体を変えてきました。自分の世界を変えたいと思うのは人間の本性の一部だと思います。そして、自分の世界の最初の対象は何でしょうか。それは自分の体、そして他人とのつながりです。

SB: ファッションの未来はどのように進化していくと思いますか。その中でレースはどのような役割を果たすことができますか。

中里: 今日の世界では多くの困難なことが起こっています。装飾の芸術は、人間であることの意味と、ファッションで将来どこに行きたいのかを発見するのに役立つと思います。人間の本性に深く根ざした装飾と装飾の必要性は、単なる機能性を超えた現象です。私にとって、衣服の装飾は平和の象徴です。なぜなら、その機能はあなたを守ることではないからです。ですから、平和な環境に住んでいれば、衣服に保護機能を組み込む必要はありません。言い換えれば、鎧は必要ありません。したがって、レースを身につけることは平和のメッセージを意味します。「戦争をしないで、レースを身につけましょう」。誰もがレースを身につけたら、とても平和なビジョンになると思います。困難な世界に直面して、私のモチベーションは、対立する視点を調和させることです。たとえば、私のビジョンを通して新しい解決策やデザインを生み出し、否定的なものを肯定的なものに変えること。

中里唯馬について

1985年生まれ。2008年、ベルギー・アントワープ王立芸術アカデミーを卒業。2015年に「株式会社 YUIMA NAKAZATO」を設立。2016年7月にはパリ・オートクチュール・ファッションウィーク公式ゲストデザイナーの1人に選ばれ、コレクションを発表。その後も継続的にパリでコレクションを発表し、テクノロジーとクラフトマンシップを融合させたものづくりを提案している。また自らが発起人となり、2021年7月より、未来を担う次世代のクリエイターのためのFASHION FRONTIER PROGRAMを創設。オートクチュール・ファッションウィークを通じて最先端のファッションを提案しながら、社会的課題にも取り組む。

YUIMA NAKAZATO

ファッションショー, 受賞歴, 展覧会と特別プロジェクト

2016年以来、Yuima Nakazatoは、オートクチュール・ファッション連盟が主催するパリファッションウィークで年に2回コレクションを発表しています。

クチュールコレクション

2024 UTAKATA – spring-summer 2024,
24 January, Palais de Tokyo

2023 MAGMA – autumn-winter 2023-2024
5 July, Palais de Tokyo

INHERIT – spring-summer 2023
25 January, Palais de Tokyo

2022 BLUE – autumn-winter 2022-2023
7 July, Palais de Tokyo

LIMINAL – spring-summer 2022
27 January, Oratoire du Louvre

2021 EVOKE – autumn-winter 2021-2022
Osanbashi Hall, Yokohama, Japan and digital presentation]

ATLAS – spring-summer 2021
Digital presentation

2020 FACE TO FACE – autumn-winter 2020-2021
Alternative project

COSMOS – spring-summer 2020
23 January, Théâtre National de Chaillot

2019 BIRTH – autumn-winter 2019-2020
30 July, École de Médecine Paris Descartes

LIFE – spring-summer 2019,
26 January, Hôtel National des Arts et Métiers

2018 HARMONIZE – spring-summer 2018
22 January, Eléphant Paname

2017 FREEDOM – autumn-winter 2017-2018
5 July, House of Culture of Japan in Paris

IGNIS, AER, AQUA, TERRA – spring-summer 2017
23 January, Maison des métallos

2016 UNKNOWN – autumn-winter 2016-2017
6 July, Palais de Tokyo

主な受賞歴

- 2018 WIRED Audi・イノベーション・アワード
- 2017 第35回毎日ファッション大賞 新人賞
- 2016 日経ビジネス 次代を創る100人- the most Influential People for Japan 2017
- 2012 Mercedes Benz Presents Designer, Japan Fashion Week
- 2010 New Dress-up, What's New? V MAGAZINE (Nicola Formichettiによるノミネート)
- 2009 ITS 2009 (インターナショナル・タレント・サポート2009) YKK賞
- 2008 アントワープ王立芸術アカデミー イノベーション・アワード
(Ann Demeulemeesterによる授与)
ITS 2008 (インターナショナル・タレント・サポート 2008) VERTICE 賞
MoMuアントワープモード博物館の常設コレクションに作品の収蔵

展覧会と特別プロジェクト

2024 単独展覧会「YUIMA NAKAZATO、BEYOND COUTURE」展
カレー・レース・ファッション美術館、フランス

衣装デザイン、オペラ「イドメネオ」 ジュネーブ大劇場
ジュネーブ、スイス、プレビュー 2024年2月21日
Sidi Larbi Cherkaoui振付

2023 衣装デザイン、バレエ「LA MER」
シチズンズ バンク オペラ ハウス、ボストン、マサチューセッツ州、米国
プレビュー 2023年4月6日、Nanine Linning振付

衣装デザイン、オペラ「HANJO」
バイエルン シュトラッツオーバー オペラ、ミュンヘン、ドイツ
プレビュー 2023年5月5日 Sidi Larbi Cherkaoui振付

展覧会「FASHION FICTIONS」参加
バンクーバー美術館、カナダ

2022 衣装デザイン、バレエ「UKIYO-E」
ジュネーブ大劇場、ジュネーブ、スイス、2022年11月
Sidi Larbi Cherkaoui振付

展覧会「CLOUD WALKERS」参加
Leeum美術館、ソウル、韓国

展覧会「A BIOLOGICAL FUTURE FOR FASHION BY BIOFABRICATE」参加
バービカンセンター、ロンドン、イギリス

写真集「Yuima Nakazato, behind the design book」
中里唯馬と日本教育財団によるコラボレーション、ブックエンド株式会社出版、東京、日本。

2021 展覧会「FASHION IN JAPAN: 1945-2020」参加
国立新美術館、東京、日本

2020 展覧会「MAKING FASHION SENSE」参加
エレクトロニック アート ハウス、バーゼル、スイス

2019 展覧会「FUTURE AND ARTS」参加
森美術館、東京、日本

展覧会「DRESS CODE: ARE YOU PLAYING FASHION?」参加
京都国立近代美術館、京都、日本

2018 ショールーム「Exhibition YUIMA NAKAZATO HARMONIZE」
21_21 DESIGN SIGHT、東京、日本

2016 インスタレーション「UNKNOWN」
表参道ヒルズ、東京、日本

2015 衣装デザイン、舞台「SUPER LOSERZ SAVE THE EARTH」
宮本亜門アートディレクション

2014 展覧会「ルパン三世展」参加
東京、日本、北村龍平監督

2012 衣装デザイン「三代目 J Soul Brothers」

2011 写真集「The Body Beyond」
マシュー・ストーンとのコラボレーション

2010 2011S/Sコレクション、「NEW GENDER」
東京、日本

ブラック・アイド・ピースのファーギーの衣装デザイン
レディー・ガガの衣装デザイン

2009 2009 A/Wコレクション

展覧会構成/デザインおよびパートナーシップ

総合キュレーター

Anne-Claire Laronde

文化遺産主任キュレーター、カレー美術館館長

学術キュレーター

Shazia Boucher

文化遺産キュレーター、カレー美術館副館長

アーティスティックディレクション

中里唯馬

YUIMA NAKAZATO

空間デザイン

Simon de Tovar、Alain Batifoulier

Studio Tovar

展覧会カタログ

Lienart éditions

144ページ、イラスト120点、Shazia Boucher、Emilie Hammen、Anne-Claire Larondeによるテキスト付き。

パートナーシップ

展覧会で公式写真の一部とバレエ「UKIYO-E」のビデオ抜粋を展示するにあたり、ジュネーブ大劇場より許可をいただきました。

「Ukiyo-e」ジュネーブ大劇場制作のバレエ、2022年11月世界初演 振付: Sidi Larbi Cherkaoui、舞台デザイン: Alexander Dodge、照明: Dominique Drillot、衣装: 中里唯馬、写真: Gregory Batardon、音楽: Szymon Brózska、Alexandre Dai Castaing、©ACTUA FILMS – ジュネーブ大劇場 – RTS - 2022

会期中プログラム

文化プログラムは、YUIMA NAKAZATOの世界を発信することを目的に構成されており、一般の方とファッション専門家の両方を対象とした特別なイベントやミーティングがあります。プログラムには、ダンスパフォーマンスによるプレビュー、家族向けの特別プレビュー、オートクチュールのスキルのデモンストレーション、ワークショップ、持続可能なファッションに関する会議、カレー県立音楽院による音楽の自由演奏などが開催されます。

展覧会一般情報

Exhibition Yuima Nakazato, Beyond Couture

From June 15th, 2024 to January 5th, 2025, Museum of Lace and Fashion

展覧会 YUIMA NAKAZATO, Beyond Couture

会期 2024年6月15日-2025年1月5日

Museum of Lace and Fashion

カレー・レース・ファッション美術館

135 quai du Commerce - 62100 Calais

+ 33 (0)3 21 00 42 30

www.cite-dentelle.fr

Open daily from 10 am to 6 pm (5 pm from November 1st to March 31st). Closed on Tuesdays, New Year's Day, May 1st and Christmas Day.

開館時間 10:00~18:00 (11月1日~3月31日は17:00まで)

休館日 毎週火曜日、1月1日、5月1日、12月31日

Full admission fee : 7€ /4€

(for reduced admissions and group fees please see the website).

入場料 7€ /4€

On-site restaurant, shop and resource library.

館内レストラン、ミュージアムショップ、資料館有り

Find the exhibition program of events at www.cite-dentelle.fr

and follow @citedentellemode and the exhibition on social media

#expoyuima

#yuimanakazato

#citedentellemode #calais

プレスコンタクト

Agence Observatoire, Paris

Aurélie Cadot : aureliecadot@observatoire.fr

+33 (0)6 80 61 04 17

KCD Paris

Bertrand Bize : bize@kcdworldwide.fr

YUIMA NAKAZATO

press@yuimanakazato.com